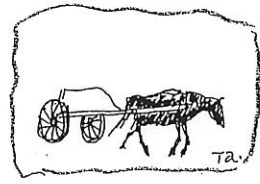


二〇〇二年

猛暑のフランス滞在記

(第十九回《二〇〇二年度》渋沢・クロードル賞)
ルイ・ヴィトン ジャパン特別賞受賞者

関西大学総合情報学部助教授
博士(商学) 亀井 克之



はじめに

全世界を震撼させた米国同時多発テロの奇しくも前日の二〇〇一年九月十日、私は一冊の本を刊行した。『新版フランス企業の経営戦略とリスクマネジメント』(法律文化社)である。

幸いなことに、本書は、二〇〇二年度の第十九回渋沢・クロードル賞(日仏会館・毎日新聞社主催、駐日フランス大使館・渋沢青淵記念財団竜門社後援、ルイ・ヴィトン ジャパン(株)協賛)におい

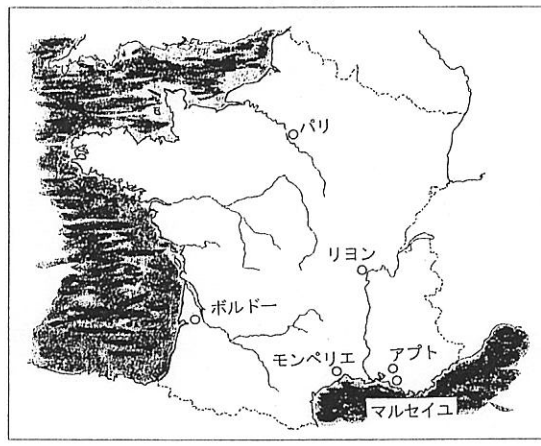
て、「ルイ・ヴィトン ジャパン特別賞」受賞という荣誉に輝いた。渋沢栄一とポール・クロードルの名を冠するこの賞は、毎年日本とフランスに関する優秀な著作に授与される。私の場合、経営戦略とリスクマネジメントというテーマで、フランス企業を分析した。フランス経営学ならびにフランス企業経営におけるリスクマネジメントについて本格的に論じたのは、本書が我が国において最初である。さて、この賞の副賞により、昨夏、フ

ランスに一カ月間滞在する機会を得た。具体的には、南仏ラングドック・ルシヨン地方の中心都市モンペリエを基点とした調査・資料収集と、南仏プロバンスの小村における行政の実態調査を実施することができた。ここに、誠に簡略ではあるが報告をしたためてみた。

記録的猛暑の夏

二〇〇三年夏、フランスは八月初めから記録的な猛暑となった。各地で連日四〇度近い気温が続き、全仏に一八〇ある

渋沢・クロードル賞



気象台のうち七〇カ所で最高気温の記録を更新した。マスコミでは、酷暑を意味する「カニキュール」という言葉が飛び交っていた。この猛暑による干ばつのため、農作物に大きな被害が出た。さらに、高齢者を中心に、猛暑が原因で死亡した人が一万人以上上った。老人ホーム入居者の死亡、独居老人の死亡など、いず

れの場合も緊急医療体制などの危機管理システムの不充分さが指摘された。猛暑は、フランス社会の特徴も浮き彫りにした。すなわち、バカンス大国のフランスでは、医療機関においても夏の長期バカンスをとる者が多く、人手不足に陥っていた。また、元来個人主義の国で離婚の増加に伴う家族関係の複雑化などを背景に、死亡した老人の引き取り手が現れないケースが数多く見られた。

南仏の都市モンペリエに滞在した私は、この猛暑を肌で実感せざるを得なかった。しかし、猛暑はマイナスの側面だけをもたらしたわけではない。ワイン生産者にとって、今年はブドウ果汁の濃度が高く、ワインの品質は史上最高の部類となる見通しである。二〇〇三年は猛暑の被害と共に、最高のヴィンテージの年として人々の記憶に残ることになる。

小さな村から大きな環境保護

南仏プロバンス地方の中でも、とりわ

け美しい自然で人々を魅了するリュベロン地方にリュウックスという人口百人あまりの小村がある。八月の第一週にこの村の村長夫妻が営む民宿に滞在し、村の行政等について密着取材・調査を行う機会を得た。

リュウックスは、リュベロン地方の中心地の一つであるアプトから六キロの地点にある。英国人ピーター・マイルの紀行『南仏プロバンスの十二月』により一躍脚光をあびることになった、リュベロン地方の小村群の一つで、いわゆる観光地化・別荘地化することなく、素材で広大な自然そのものの美しさを保持している稀有な存在の村である。岩肌が剥き出しになった山が連なっており、ロッククライミングの聖地のひとつでもある。

村長のジャン・アラン・ケラ氏は、前回の統一地方選挙によって初当選し、就任した。元々、ラベンダー栽培を中心とする農業と民宿業を営んでいたケラ氏が村長職に立候補を決意するに至ったきつ

かけの一つに、自らがこよなく愛するリユベロンの美しい自然を守らなければならないという強い使命感があった。ケラ氏の持論は明快である。「観光振興によりリユベロンの村々の財政は潤い得る。しかし、観光客のための施設をいくら充実させても、リユベロンの自然保護そのものには繋がらない。観光客が魅力を感じて訪れてくれる美しい自然環境を保護するためには、それを手入れする人が必要である。それは農業に従事する人たちにほかならない。風光明媚な景色の維持は、実は、農業の充実によって保証されているのだ。農業をないがしろにして、目先の観光振興に走ってはならない。」

ケラ氏は、二十五年前にビュウックスに移り住む以前は、パリで物理学研究の助手、さらにはフリーの経営コンサルタントをしていたという異色の経歴の持ち主である。前任者の着手していた事業を継承しつつも、独自色を発揮して、村の行政に次々と新機軸を打ち出している。

E.U.レベル、国レベルで地方に対してさまざまな補助金が存在するが、その申請手続きは繁雑で大人数のスタッフを有する地方公共団体以外では、補助金獲得に二の足を踏んでいるのが実状である。ケラ氏の場合は、マーケティングを専門とする経営コンサルタントとしての経験と十二分に発揮し、戦略的にてきぱきと補助金の申請・獲得に成功している。就任以来得られた資金を活用して、村の道路は見違えるほど整備されたほか、大雨に備えての排水道も確保された。小さな村でも積極的に補助金を得て村民に還元することが可能であることを示したモデルケースとして、ケラ村長の手腕は、二



〇〇三年夏、地方の新聞「プロバンス」誌上で紹介された。二〇〇三年の国営テレビ・フランス2の夏の連続ドラマは、その名も『酷暑の夏』で、舞台はリユベロン地方であった。ケラ村長の民宿は、ドラマの主人公の女性一家が住む家として撮影に使用された。このドラマが放映された夜、その鑑賞会に同席させてもらったが、金塗装師としても活躍しているペロニク夫人の言葉が印象的であった。「村は変わった。大きなリスクをとって彼が村長になって本当に良かった。」

さて、ビュウックス村では、毎年八月の第一日曜日に恒例のバザーが開催される。バザーは、フランス語では、納屋に余った物を放出するという意味の「ビッド・グルニエ」と呼ばれる。村長夫妻の許可を得て、正式にエントリーした私は、日本の伝統文化である折り紙セット（折り鶴・折り方説明書付き）を販売した。人々は日本文化に興味を抱いてくれるも

の財布の紐は固く、赤字に終わってしまった。

危機管理の夏

モンペリエ滞在中は、資料収集に注力する一方で、さまざまなニュースに目を凝らし、耳を傾けた。猛暑に見舞われた昨夏のフランスは、観光業が大打撃を受けた。まず、一大バカンス地であるコート・ダジュールでは、七月末に発生した山火事によりホテルのキャンセルが相次いだ。前年秋に沈没タンカーからの流出重油による海岸汚染の被害を受けた大西洋岸では、七月半ばに暴風雨に襲われ、泣き面に蜂の様相となつてしまった。さらに舞台芸術関係のスタッフ職のストライキのあおりを受けて、アビニヨンの演劇祭やエクス・アン・プロバンスの音楽祭など、全国各地で毎夏恒例の芸術フェスティバルが中止に追い込まれた。「デイズニールランド・パリ」を運営するユーロ・デイズニール社の財政危機も報道され

た。

世界一の観光大国フランスであるが、昨夏は幾多のリスクに遭遇し、危機管理の観点から大きな試練を経験した。なお、こうした社会的状況の下、モンペリエの名門校である陸軍経営行政学校の関係者と危機管理・リスクマネジメントについて意見交換する機会を得ることができた。

初の日本人選手デビュー戦

モンペリエでは、日本とフランスのスポーツ交流において、大きな出来事があった。サッカー元日本代表の広山望選手がフランス一部リーグのモンペリエと契約を結んだのである。

八月二日、フランス・リーグ開幕戦の対レンヌ戦、フランスのサッカー一部リーグでプレーする初の日本人選手のデビュー戦を見ようと、スタジアムに足を運んだ。試合開始前には、サポーター席で大きな日の丸の旗が振られた。ハーフト



イムの観客席では、「どんな選手なんだい？」と地元サポーターから私は次々と声をかけられた。後半開始と共に、広山選手が交代で出場した。軽快な彼の動きに「ヒロヤマ」コールが起こり、流れをつかんだモンペリエは、試合終了直前に同点に追いつき、地元ファンは熱狂的に喜んだ。

おわりに

以上、記録的猛暑の昨夏フランスに身を置いて、実に貴重な体験をすることができた。こうした機会を提供して下さった渋沢・クローデル賞の関係者各位に心より感謝する次第である。

青 淵

せい

えん

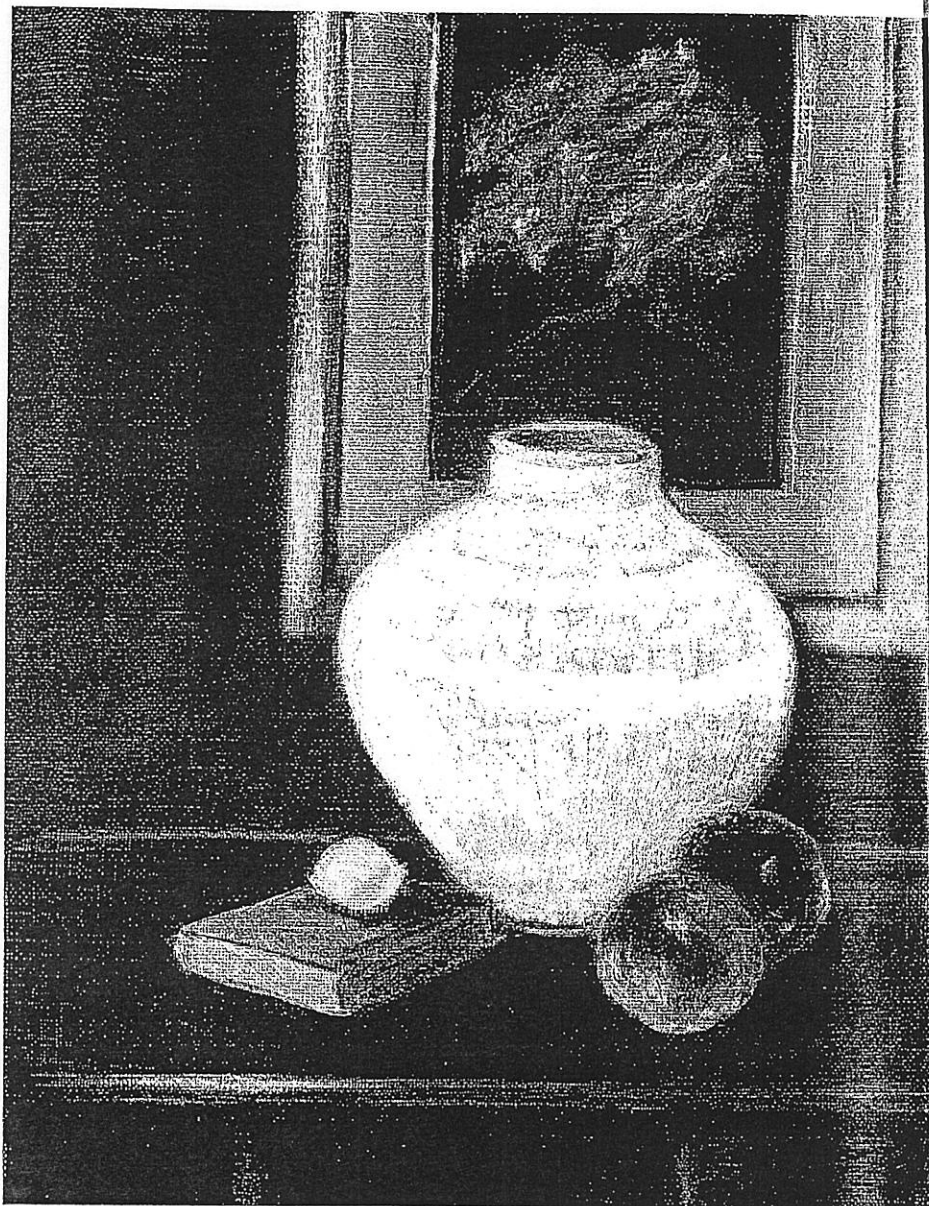
三月号

昭和二十四年五月二十日 第三種郵便物認可
平成十六年三月一日発行 毎月一回一日発行

(六六〇号)
三月号

金三五〇円(送料六八円)
会員の購読料は会費に含めて徴収している。

財団法人 渋沢栄一記念財団



渋沢史料館 東京都北区西ヶ原 2-16-1
Tel: 03-3910-0005
<http://www.shibusawa-foundation.jp>

ばんこうろ せいえんぶんこ 晩香廬・青淵文庫 公開

3/20(土) - 5/5(水)

期間中の土・日・祝日

時間: 12:30 - 15:45

場所: 飛鳥山旧渋沢庭園内

<http://www.shibusawa-foundation.jp>

渋沢邸のいま・むかし 庭園ガイド・ツアー

3/20(土) ・ 3/27(土)

時間: 13:30 - 14:30

場所: 渋沢史料館 集合

※天候により中止する場合があります。



本誌4月号とじ込みの「会員特別招待券」をご活用ください。

SHIBUSAWA MEMORIAL MUSEUM

ISSN 0912-3210